

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 8 月 10 日現在

機関番号：32635

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370055

研究課題名(和文)7世紀の律文献にみられる仏教者と仏教教団の研究

研究課題名(英文)A Study of Buddhists and their Community during the 7th century CE on the basis of Vinaya texts

研究代表者

米澤 嘉康 (YONEZAWA, Yoshiyasu)

大正大学・仏教学部・専任講師

研究者番号：50710373

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：律文献をもとにした7世紀インドにおける仏教者と仏教教団の実態解明をめざした本研究の成果は、以下の2点にまとめられる。

(1)『律経』「出家事」第1-150経、ならびに、『律経自註』における当該箇所(1)のサンスクリット語テキスト校訂と翻訳を完成した。

(2)国内外の律研究者とともに『律経』ワークショップを開催し、さまざまな情報交換を行った。これによって、律文献の研究基盤を構築することに寄与できたと思われる。

研究成果の概要(英文)：The achievements of this research for the purpose of actual elucidation of Buddhists and their community during the 7th century CE on the basis of the Vinaya texts are summarized as the following two points.

1) A critical edition of the Sanskrit text of 1-150 sutras of the Pravrajyavastu in the Vinayasutra together with their commentary in the Vinayasutravrtty-abhidhana-svavyakhyana and its Japanese translation are completed.

2) The Vinayasutra Workshop was organized, in which participants of Vinaya experts from home and abroad could exchange several information. It can be said that this opportunity contributed to establishment of a research base for text critical studies of Vinaya texts.

研究分野：仏教学

キーワード：『律経』 『律経自註』 根本説一切有部 サンスクリット語 写本研究

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 近年、大乘仏教の部派(教団)はどのように形成されたか、大乘経典はどのように作成されたか、といった仏教の根本的な問題をあつかう研究が盛んに進められている。こうした問題を解決するためには、仏教修行者や教団の実情や行動規範から部派が形成され、そこから教理や思想が変遷していった、という発想も必要であると考えられる。その資料となりうるのは、律文献である。しかし、律文献といっても、東南アジアを中心とした教団が伝承しているパーリ律文献群、中国で漢訳された律文献群、インドなどで発見されるサンスクリット律文献の写本など、その資料は膨大である。この全体像を個人研究だけで正確に把握することは不可能であり、国内外の律研究者とともに連携し、律文献の研究基盤を構築することが必要であった。

(2) 律文献の研究は仏教の伝播や変遷と大きく関わっており、その資料も多岐にわたっている。たとえば、東南アジア諸国で伝承されてきたパーリ律文献群、中国で漢訳された律文献群 法蔵部、弥沙塞部、薩婆多部、大衆部、根本説一切有部などに所属している。チベットにおいては『根本説一切有部律』などである。さらに、インド亜大陸やその周辺などにおいて、サンスクリット語で書写された律文献写本断簡が発見されており、現在、それらも研究対象となっている。

## 2. 研究の目的

(1) サンスクリット語の律文献写本は大部分が断簡であり、それらがどのような律文献のどの部分であるか、チベット語訳・漢訳の律文献を参考にして比定研究が進められている。『根本説一切有部律』については、完本ではないがまとまった分量のサンスクリット語写本が発見されており、他の律文献に比べ資料が多いといえる。そこで、本研究はサンスクリット語の写本(部分的)、チベッ

ト語訳、漢訳の揃っている『根本説一切有部律』の文献学的な解明、ならびに、その研究基盤の構築を試みた。

(2) 本研究では徳光(Gunaprabha 550-630 頃)作の『律経』・『律経自註』「出家事」部分を中心に研究を行うこととした。2001年以前の『律経』・『律経自註』研究は、それぞれ、一本の写本に基づき行われていた。そのうち、『律経』写本は、研究者がアクセスできず、不完全な刊本に準拠せざるをえなかった。『律経自註』写本(完本ではない)に基づき、ババットによる『律経自註』テキストの出版や、中川正法氏(連携研究者)による研究成果が発表されていた。2001年に、研究代表者・分担者の所属する大正大学によって、日中文化交流の成果として、西藏自治区政府文物管理局の認可のもと『チベット・ウメ字転写梵文写本集成影印版』が出版された。この影印版に、上記の『律経』写本、ならびに、新たに比定された『律経自註』抄本の写本が収録された。これらの新資料に準拠し、『律経』・『律経自註』について、より文献学的に精度で研究を行うことが可能となった。

そこで、本研究は、『律経』・『律経自註』を研究対象とし、さらに、『根本説一切有部律』との関連をより明らかにすることも視野に含めた。

## 3. 研究の方法

### (1) 文献学的基礎研究

『律経』・『律経自註』「出家事」部分を2つの写本からローマ字化する。

上記作業をもとにした校訂テキスト・翻訳を作成する。

上記校訂テキストならびに翻訳と他の文献との関連を確認する。

### (2) 律研究者のネットワーク構築

各種学会に参加し、文献学的基礎研究の

成果を公表する。

研究会，ワークショップを開催し，研究者同士の情報交換の機会を提供する。

#### 4. 研究成果

##### (1) 文献学的基礎研究

『律経』「出家事」第1 150経，ならびに，それに対する『律経自註』の註釈，それぞれのサンスクリット語テキストについて，校訂テキスト，和訳を完成した。

その前提となった写本のローマ字化の過程において，『律経自註』の基礎資料として，ババット校訂本が準拠している写本とウメ字抄本写本との2種類のみならず，『律経』ウメ字写本における行間の注記も参照されるべきことを明らかにした。というのは，その注記部分と『律経自註』のテキストとにおいて一致する場合が多いことを確認したからである。たとえば，「出家事」第150経の『律経自註』サンスクリット語テキストは，現存する2種類の写本に欠いているが，部分的ではあるが，『律経』ウメ字写本における行間の注記から回収できたことは大いなる成果である。

校訂テキスト・翻訳の作成過程において，他の文献との関連についても検討された。義浄(7世紀)著『南海寄帰内法伝』との内容比較を行いながら，『律経』ならびに『律経自註』は，『根本説一切有部律』に準拠していることが確認された。ただし，その『根本説一切有部律』が，現存のサンスクリット語断片写本，義浄による漢訳，そして，チベット語訳のいずれとも，厳密に一致するわけではない。そこで，『律経』ならびに『律経自註』から，現存のテキストとして確定される前の『根本説一切有部律』を想定できるかもしれないという仮説を立てることが可能となった。

『根本説一切有部律』の組織については，『翻訳名義大集(Mahavyutpatti)』などにお

いて「ヴィヴァンガ」「ヴィナヤヴァストウ」「クシュドラカヴァストウ」「ウッタラグラント」から構成されることが知られている。しかし，その「ウッタラグラント」の詳細については，不明の点が残っていると指摘されていた。その「ウッタラグラント」内の章題のいくつかについて，『律経自註』サンスクリット語テキスト-ウメ字抄本写本から回収された-が言及していることが明らかになった。すなわち，『律経自註』のテキストが『根本説一切有部律』の組織解明の資料となりえることが明らかになったのである。

##### (2) 律研究者のネットワーク構築

2014年度は，ウィーン大学で開催された国際仏教研究協会(International Association of Buddhist Studies)第17回学術大会に参加し，世界中から集まった仏教研究者と交流がもつことができた。その結果，本研究助成終了後であるが，研究代表者は，2017年に開催されるトロント大学で開催される第18回学術大会のパネル(Vinaya Commentaries)に招待されることとなった。

2015年度は，筑紫女学園大学の中川正法先生とともに，研究会を開催した。その際に，マックマスター大学・准教授であるクラーク先生から情報提供を受けた。その成果は，2016年度における研究代表者の学会発表，ならびに，学術論文として結実した。

最終年度である2016年度には，大正大学において，『律経』ワークショップを開催した。このワークショップに『律経』を扱った研究者は，ほぼ参加したといえる。参加者同士で情報交換を含む活発な議論を通じて『律経』ならびにその『自註』の資料的価値が再認識された。

なお，参加できなかった研究者，特に，中国蔵学研究中心の研究者である Luo hong 博士から，ワークショップのために，貴重な研

究資料の提供を受けることができたことは、  
特筆に値する。

5. 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

Yonezawa Yoshiyasu 2016. “The *Vinayasutra* and the *Mulasarvastivada-Vinaya*.” 査読有 『印度学仏教学研究』 65.3: 1171-1178.

Yonezawa Yoshiyasu 2015. “sTeng lo tsa ba Tshul khrims 'byung gnas: Tibetan Translator of the *Vinayasutravrtty-abhidhana-svavyakhyana*.” 査読有 『印度学仏教学研究』 64.3: 1147-1154.

吉澤秀知 2015 「Bhiksuni-Vinaya 訳註(2)」査読有 『総合佛教研究所年報』 37: 101-124.

[学会発表](計4件)

米澤嘉康 2016.9.3. 「『律経』と『根本説一切有部律』」日本印度学仏教学会，東京大学文学部(東京都・文京区)

Yonezawa Yoshiyasu 2016.8.3. “Sanskrit Manuscripts of the *Vinayasutravrtty-abhidhana-svavyakhyana*.” The 6th Beijing International Seminar of Tibetan Studies, China Tibetology Research Center 北京(中華人民共和国)

米澤嘉康 2015.9.19. 「チベット語『律経自註』の翻訳者について」日本印度学仏教学会，高野山大学(和歌山県・伊都郡)

平林二郎 2014.12.6. 「『律経』「出家事」再校訂における諸問題」佛教文化学会，大正大学(東京都・豊島区)

6. 研究組織

(1)研究代表者

米澤 嘉康 (YONEZAWA, Yoshiyasu)  
大正大学・仏教学部・専任講師  
研究者番号：5 0 7 1 0 3 7 3

(2)研究分担者

吉澤 秀知 (YOSHIZAWA, Hidetoshi)  
大正大学・仏教学部・非常勤講師  
研究者番号：0 0 6 4 6 3 9 1

平林 二郎 (HIRABAYASHI, Jiro)  
大正大学・総合仏教研究所・研究員  
研究者番号：3 0 7 2 4 4 2 1

(3)連携研究者

中川 正法 (NAKAGAWA, Masanori)  
筑紫女学園大学・人間科学部・教授  
研究者番号：0 0 2 2 7 7 5 3

古宇田 亮修 (KOURA, Ryoshu)  
淑徳大学・長谷川仏教文化研究所・主幹  
研究者番号：8 0 4 4 5 1 4 7

松本 恒爾 (MATSUMOTO, Koji)  
大正大学・総合佛教研究所・研究員  
研究者番号：9 0 7 2 2 4 6 3

(4)研究協力者

山極 伸之 (YAMAGIWA, Nobuyuki)  
佛教大学・仏教学部・教授

Shayne Clarke  
マックマスター大学・准教授

Chung Jin-il  
ゲッティンゲン科学アカデミー・研究員

鈴木 健太 (SUZUKI, Kenta)  
北海道武蔵女子短期大学・准教授

長島 潤道 (NAGASHIMA, Jundō)  
大正大学・仏教学部・専任講師

倉西 憲一 (KURANISHI, Ken'ichi)  
大正大学・仏教学部・非常勤講師

青野 道彦 (AONO, Michihiko)  
東京大学大学院・人文社会系研究科・  
文学部・インド哲学研究室・助教

名和 隆乾 (NAWA, Ryūken)  
大阪大学・文学研究科・文化形態論専攻・  
助教

岸野 亮示 (KISHINO, Ryōji)  
佛教大学・仏教学部・非常勤講師

山崎 一穂 (YAMASAKI, Kazuho)  
中村元東方研究所・研究員

八尾 史 (YAO, Fumi)  
学振 PD

井上 綾瀬 (INOUE, Ayase)  
龍谷大学・仏教文化研究所・客員研究員

横山 裕明 (YOKOYAMA, Hiroaki)  
大正大学・総合佛教研究所・研究員